

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 第3次産業活動指数(2006年6月)

発表日2006年8月15日(火)

～前月比マイナスだが回復基調は変わらず～

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 エコノミスト 結城 良彦
TEL : 03-5221-4573

(単位:%)

		第3次産業活動指数		電気・ガス・熱供給・水道業	情報通信業	運輸業	卸・小売業	金融・保険業	不動産業	飲食店・宿泊業	医療・福祉	サービス業
		前期比	前年比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比
04	1-3月	0.0	2.5	1.8	▲3.0	▲0.5	▲0.1	1.0	▲0.2	▲0.6	1.0	▲0.2
	4-6月	1.6	2.5	1.6	3.3	0.7	0.5	2.4	1.6	0.5	0.7	3.0
	7-9月	▲0.2	2.4	0.2	▲3.4	0.5	0.1	▲1.9	0.1	▲0.8	0.9	0.8
	10-12月	0.6	2.0	▲2.4	3.7	▲0.1	▲0.1	0.6	0.6	▲0.1	0.2	1.5
05	1-3月	1.2	2.1	3.7	▲1.6	0.4	1.5	1.6	▲0.2	2.1	0.7	2.1
	4-6月	0.2	1.9	▲0.9	0.9	1.2	▲0.2	▲0.5	0.9	▲0.1	▲0.1	0.3
	7-9月	0.4	2.2	0.0	▲0.7	▲0.1	▲0.2	3.0	0.7	0.0	0.0	0.6
	10-12月	1.1	2.6	3.6	2.1	▲0.5	1.1	4.4	1.1	0.9	0.6	▲0.2
06	1-3月	0.3	2.0	▲0.7	▲1.3	0.6	0.6	▲1.1	▲0.7	1.2	0.9	0.6
	4-6月	0.6	2.7	▲0.8	1.8	0.3	0.8	▲0.7	0.6	0.6	▲0.2	1.2
05	1月	1.6	3.1	3.5	▲2.8	0.5	4.1	2.5	▲0.6	▲0.5	0.8	1.3
	2月	▲0.7	1.5	2.0	0.8	▲0.5	▲2.4	▲0.7	0.3	▲0.6	▲0.5	▲0.2
	3月	▲0.4	2.0	▲0.7	▲1.2	1.9	▲2.2	▲0.2	▲1.2	0.0	0.5	▲0.5
	4月	1.0	1.9	▲0.2	1.0	0.3	2.6	0.2	1.1	0.3	▲0.1	0.8
	5月	▲0.8	1.9	▲2.1	▲1.0	▲0.8	▲1.0	▲0.3	0.8	▲0.4	▲0.2	▲0.9
	6月	0.6	1.9	1.8	3.4	1.2	0.4	▲0.3	0.1	0.1	▲0.3	1.5
	7月	▲0.3	1.3	▲3.2	▲2.9	▲0.6	0.1	1.1	▲0.2	▲0.2	0.1	▲0.4
	8月	1.1	3.2	3.9	1.0	0.3	0.7	2.5	1.1	0.0	0.6	0.7
	9月	▲0.7	2.0	0.6	▲0.8	▲0.6	▲2.1	1.3	▲0.5	0.9	▲0.7	▲0.5
	10月	1.0	3.2	0.4	4.6	▲0.4	1.6	1.5	0.9	0.2	0.0	0.0
	11月	0.3	2.7	▲0.4	▲3.1	0.3	0.9	1.0	▲0.2	▲0.5	0.7	0.4
	12月	0.0	2.2	5.3	▲0.6	0.1	0.4	1.2	0.6	1.6	1.2	▲1.2
06	1月	1.5	2.3	▲2.6	2.9	0.2	3.1	0.0	▲0.3	▲1.0	0.7	1.9
	2月	▲1.4	2.5	▲1.5	▲2.8	▲0.8	▲3.5	▲1.9	▲1.3	1.6	▲2.0	0.7
	3月	▲1.1	1.2	▲0.8	▲2.3	2.3	▲1.9	▲2.9	0.0	0.6	1.8	▲2.9
	4月	1.6	2.1	2.5	3.2	▲1.4	2.9	2.2	1.0	▲0.1	▲1.9	2.3
	5月	0.7	3.6	▲2.5	▲0.3	1.0	0.8	▲0.5	0.1	0.4	2.6	1.6
	6月	▲0.6	2.2	▲1.4	4.3	▲0.4	▲0.4	0.2	0.0	▲1.3	▲1.6	▲1.3

(出所)経済産業省「第3次産業活動指数」

○ 第3次産業活動指数：前月比▲0.6%と3ヶ月ぶりのマイナス

6月の第3次産業活動指数は前月比▲0.6%となり、市場予測（コンセンサス0.0%、レンジ▲1.0%～+0.8%）を下回る結果となった。主要11業種の内訳は、低下に寄与した業種がサービス業、医療・福祉、卸売・小売業、飲食店・宿泊業、電気・ガス・熱供給・水道業、運輸業の6業種で、上昇に寄与した業種が情報通信業、複合サービス業、学習支援業、金融・保険業の4業種となっている。不動産業は横ばいであった。

このうち影響が大きかったのがサービス業（前月比寄与度▲0.28%ポイント）や医療業（同▲0.15%ポイント）、卸売業（同▲0.1%ポイント）といった業種であった。サービス業は対個人・対事業所ともに落ち込んでおり、特に専門サービス業における土木・建築の落ち込みが大きかった。ただし、この業種は大型案件の出入りによって数値がぶれやすいという特徴がある。今回の落ち込みは一時的なものであると考えてもいいだろう。その他、卸・小売業が前月比減少となった背景には、石油価格の上昇により消費者の買い控えが生じたという事情もあったと考えられる。

また、今回6月の第3次産業活動指数の公表と同時に5月の値も改定（前月比+0.7%←同+0.5%）されている。情報通信業や運輸業が比較的大きく上方改定されており、4-6月期の平均を押し上げた。

○ 第3次産業活動指数の回復基調に変化はなし

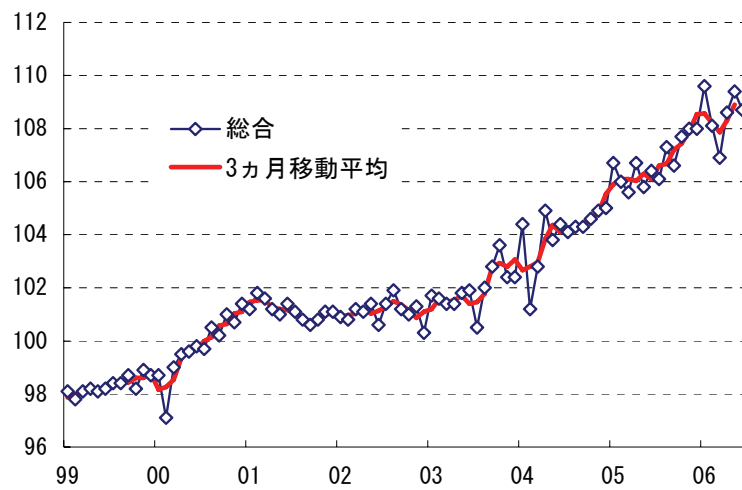
第3次産業活動指数がマイナスになるのは3ヶ月ぶりであるが、回復基調そのものには変わりはない。四半期ベースで見ると、4-6月期は1-3月期と比べて+0.6%となっており、堅調に推移していることがわか

る。4-6月期がプラスになったことで、前期比プラスは7期連続（前年比は14期連続）となる。息の長い回復が続いていることが改めて確認できたといえよう。先行きに関しても、抑制されていた個人消費が天候要因の剥落により堅調に回復を続けるとみられることから、第3次産業活動指数も回復基調を持続していくと考えられる。

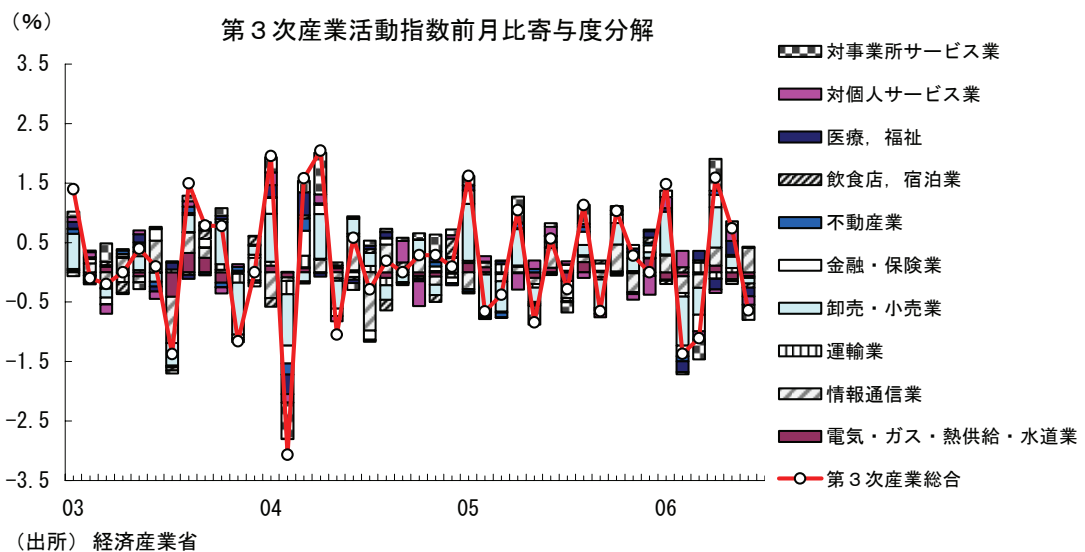
○4-6月期の全産業活動指数も回復基調を維持する見込み

今回の第3次産業活動指数の結果をもとに6月の全産業活動指数を予測すると、前月比0.0%となる。鉱工業生産指数は前月比プラスで堅調な伸びを示しているが、今回発表された6月の第3次産業活動指数がマイナスであったこともあり、全体としては横ばいになる見込みである。またこの予測値から全産業活動指数の4-6月期を計算すると前期比+0.7%となる。4-6月期のGDP速報では、市場予測を下回ったものの、設備投資や個人消費などが堅調に推移し、安定成長が確認できる結果であった。4-6月の全産業活動指数もこれを裏付けるような結果となろう。

第3次産業活動指数（季調値）



(出所) 経済産業省



(出所) 経済産業省

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。